

星のゆめ

みんなの夢の創造と実現のために……

下松市観光協会
会報

VOL.12

編集・発行／下松市観光協会

発行責任者／小西矩志

Phone 0833-45-1843

下松の風俗 さばら

夏、土用の一日で、長く農耕の主力であった沙婆羅(さばら)というが、五月(ご)の古語が変化したものか、さだかではないが、何れにしても、家畜に寄生している虫を駆除し、長い農耕の労苦をねぎらう催しである。

昔は、土用になると、米川・八代方面から、飼料を家畜の背にのせ、各自の弁当を腰にした人たちが、数十頭の家畜を平田川河口まで連れて行き、海水浴をさせたのである。



海辺の家畜の集団は、実に見ごたえがあった。帰途もまた、長い行程を暑さに耐えながら、人も家畜も、足軽く引き揚げる。

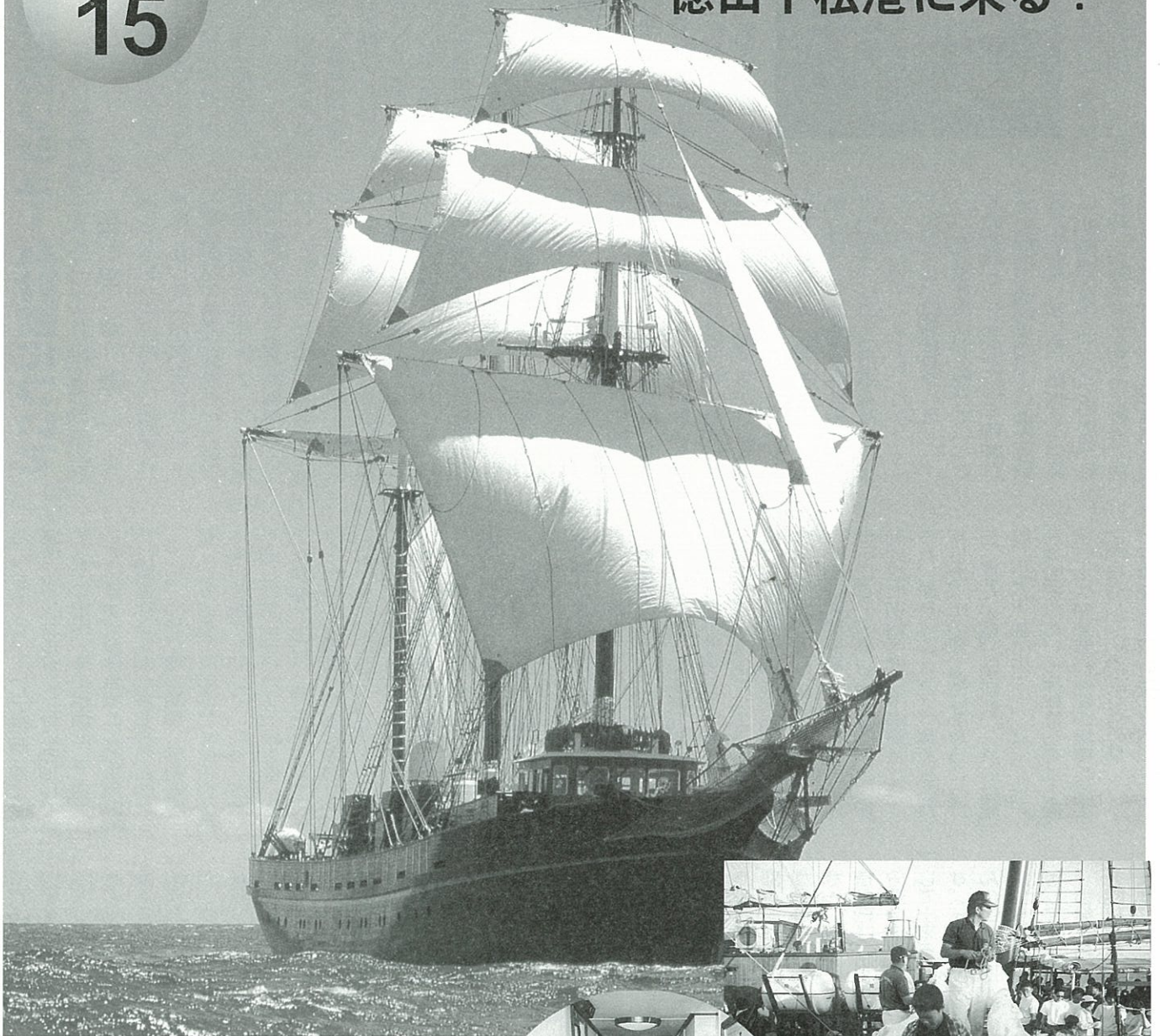
今は家畜も殆どその影を見ず、海辺は工場となり、こうした行事は再び行われまいだろう。

下松市の風俗と生活・年中行事より
昭和57年3月1日発行 下松市教育委員会



近頃商品の製造上のミスや単純な手抜き作業が原因でナショナルブランドといわれている商品群の中で不良品が発生している事がマスコミをにぎわしています。テレビ等のコマーシャルでなじみの深いコンビニやスーパーには必ず置いてあるような商品に欠陥が発見される事は消費者にとって信じられない異常な状況です。生産者(メーカー)は消費者に支持されている事に甘んじる事なく消費者の嗜好をリードするという基本的な役割を今一度認識して欲しいと思います。ともすれば、大型店同士の価格競争に巻き込まれ合理化の名のもとに健康とか、環境にやさしいとかのモノ作りの心が失われてコストダウンと大量生産のみに励んでいると本当の意味の時代の進歩にはなりません。

消費者の顔色ばかりうかがうメーカーより、自身をもって時代をリードするメーカーがもっともっと増える事によって、いきまじった消費者不況に風穴があげられるのではと期待をしています。

10/
15ハウステンボスの復元帆船「咸臨丸」
徳山下松港に来る！

10月15日午前8時、徳山下松港(下松第2公共埠頭)に入港・着岸しました。

「咸臨丸」は、長崎県佐世保市にあるハウステンボスが1990年、ロッテルダムに保存されている当時の図面をもとに復元しました。

当日は、大変天候もよく、たくさんの方が日本近代史に足跡を残した「咸臨丸」を肌で感じ、海と人とのふれ合いを感じようと集まりました。

体験クルーズや港間クルーズなども行われ、周南地区の福祉施設の児童が、ロープ結びやマスト登りなどのアトラクションを楽しみました。夜には、船内で1組55名による結婚式が行われました。

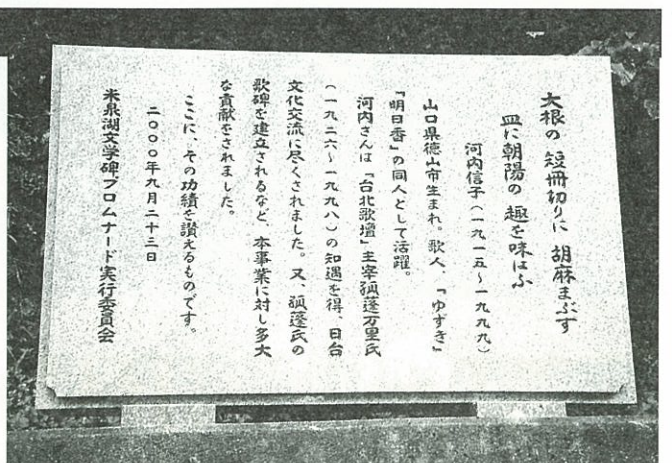
「咸臨丸」は、10月19日の出港まで下松第2公共埠頭に停泊し、訪れる人を限りないロマンに誘いました。





9/23 故河内信子さんの「顕彰歌碑」建立

9月23日早朝から雨が降り出し、開催があやぶまれた「第10回米泉湖音楽フェスタ」が米泉湖野外音楽ステージ「ビックウイング」にて開催された。米泉湖音楽フェスタとあわせて、米泉湖文学碑プロムナード実行委員会(中村隆征委員長)主催で台湾の台北歌壇との懸け橋となった故河内信子さんの顕彰歌碑と米泉湖俳句大会最優秀作品の句碑除幕式が、井川市長、小西会長、観光協会の役員に俳句大会参加者、河内さんゆかりの人たちも出席され開かれた。



除幕された顕彰歌碑は日台両国で「台湾万葉集」の編著者を務め、菊地寛賞を受けた孤蓬万里(故呉建堂)米泉湖と米泉湖文学碑プロムナードを舞台に交流を深めた徳山市の同人「明日香」会員の故河内信子さんが観光協会に「文学碑の維持管理に生かしてほしい」という遺言で500万円を贈られたのを講えるものである。

平成5年(1993)から始まった米泉湖文学碑プロムナード事業も180余の歌碑、句碑が建立され、今後さらに発展することを希望する。

会員紹介

大橋ひろのぶ
おびきましま

Vol.12



(株)新周南新聞社
大橋ひろのぶ

皆さんお元気ですか？
会員の企業を紹介するこのコーナー、今回は下松市東豊井の「東洋鋼板株式会社下松工場」と笠戸島の「株式会社新笠戸ドック」です。両社ともに下松市民にとっては、なじみの深い会社ですが、実際に

訪れて感心したことは、いずれも新規分野に積極的に挑戦していることです。ここでは紹介します。

タルク缶が好調

日本有数の鋼板工場

東洋鋼板株式会社下松工場

東洋鋼板下松工場は操業が昭和9年と歴史があり、工場の敷地面積も四十七万平方メートルと広く、ブリキや薄板など、表面処理鋼板と冷延鋼板の製造工場としては全国有数の規模を誇ります。

ジュース缶や食缶、美術缶の材料などを主に作っています。ビールやコーラ、お茶などの清涼飲料水の缶の底を見ると、真っ白なものを見たことがあるでしょう。それが、東洋鋼板が開発した自慢

の製品「タルク缶」です。

「タルク」は、究極という意味で鋼板の薄いフィルムを張っているため、お茶やビールの風味を損なわないため、大変な人気を集めています。このほかにもコンピューターの



の貴船に着きました。

さすがにちよつと一枚上着が欲しいほど「涼しい」からすごい。料理は「あゆ」料理だが何故か隣の「すき焼き」の方が気が入ってしまうほど涼しかった。

川の流れの上に床を敷くことなら、他の町でも出来そうなことだが「涼」を売る歴史が必要なのだろうか。

京都は自然と人の暮らし方が「商い」に成っている「素敵な町」なのです。



ただ今”単身赴任中”
三池孝尚の京都あれこれ

あかい坊 名誉住職 三池孝尚

残暑というより酷暑の毎日で名所の御室桜もぐったりです。

仁和寺には開山宇多天皇と天神様と親しまれた菅原道真公のご縁を象徴している「菅公の腰掛け石」と言う霊場があります。

「水掛不動さま」とか「一願不動」として参詣の信者さんの人気を一身に集めている場所ですが、肝心の井戸の水が枯れる寸前です。ついに「内緒で…」緊急用の消火栓からホースで給水す

ることで凌いでいるほどです。

暑い中なんとか「喜ぶ」方に廻っている名所もあります。川床を利用して「川床料理」です。高雄や貴船、鴨川などが有名で「涼」を売るには「暑い季節」が大切な条件になっています。

先日、ホテルと業務提携してサービスしている貴船の「○○や」さんに出かけることになり蒸し暑い京都駅から約一時間送迎バスにゆられて北山の谷あい

記憶装置、ハードディスクドライブに使われる円形の基板、MDを製造するなど、新規分野にも挑戦しています。

船舶修理のほが

コニクな新規分野にも挑戦

株式会社新笠戸ドック

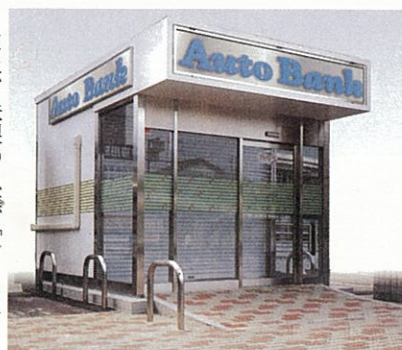
新笠戸ドックは、旧笠戸ドック閉鎖後、船舶の修繕部門を引き継いで新しく発足した会社です。

笠戸島の真ん中にある工場には3基の大きなドックがあり、国内外の大きささまざまな船が停泊し、修理されています。



新会社発足後、流線型の船を作る巧みな技術を生かし、さまざまな新規事業にも挑戦しています。徳山市のいちやショッピングセンターや下松市役所にある銀行ATMのステンレス製CDブース「オートバンク」や、下松市の温水プールを初めさまざまな建物の天井にあるオシャレな天窓「ファイ

ンライト」も同社の製品です。



また、鉄製の魚礁「シーファーム」も製造。これは海の底に沈めて魚類の数を増やす設備で、県内各地で使われ、大きな成果をあげているそうです。海から陸上まで幅広い分野での活躍が目まぐるしくなっています。

編集後記

暑かった夏も、イカダレースを終える頃から秋の装いをみせてきました。星のゆめ12号の発行にあたり、行事紹介を中心にしてきた前号までの動きにシフト変更していく事にしました。表紙については引き続き下松の昔と今をテーマに写真を掲載していきますのでなつかしい写真がありましたら事務局まで連絡して下さい。これからも気軽に紙面に参加できる会報誌をめざしていきますのでご協力お願いいたします。(A)